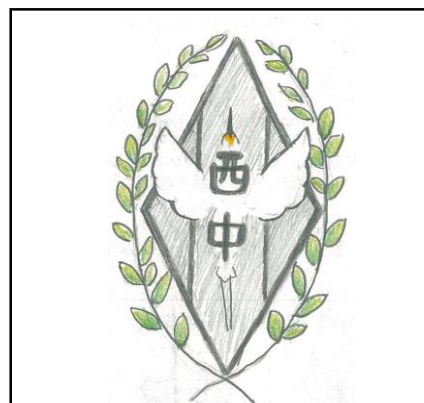


1



八中の白鷺と十一中の月桂樹を組み合わせた。
W（西）と目黒を入れることで、目黒南中としっかり判別できるようにした。
栄光のシンボルである月桂樹も $8 + 11 = 19$ 個書き、この学校全体で協力したり助けたり、助けられたりする一体感をイメージした。
白鷺の足も中（中学校）にして、中学校であることを強調している。

2



八中と十一中が組み合わせあって西中になることを意識し、両校既存の校章の要素を取り入れた。八中の白鷺と十一中の月桂樹、11を組み合わせた。
飛んでいる鳥は未来へはばたくという意味もあり、11が滑走路にも見えるのでこのデザインにした。

3



八中の校章に使われていた白鷺とW（西）を合体させて、より意味の深いWにした。また、十一中の校章で使われていた月桂樹の葉の数を、左が11枚、右が8枚で、十一中と八中ということを表している。そして、リボンが2つの中学校を結んでいることを表している。また、西は夕方、太陽が沈んでゆく方向であることから、太陽をデザインに入れた。
太陽のように、一人一人が輝ける、発展、成長ができる学校にするという目標を込めた。

4



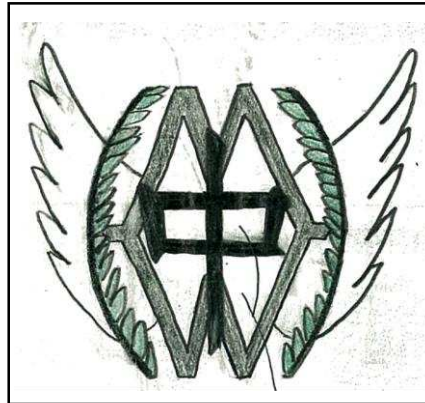
デザインにある八重桜は、豊かな教養という意味が込められており、上におくことで、それを重視するということを表した。また、月桂樹が白鷺を囲むようにすることで、戦争を生き抜いた白鷺が平和と栄光を手にする様子を表している。

5



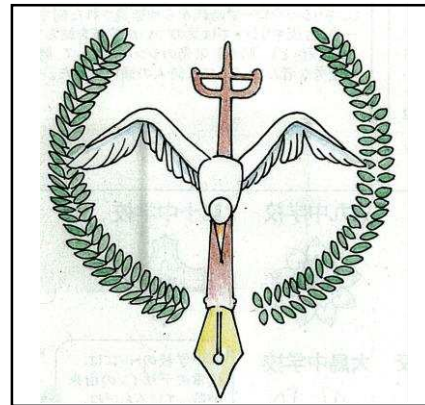
八中の白鷺と十一中の月桂樹が重なり、結ばれることで意気投合してほしいという意味を込めた。周りの円の部分は、新校のスクールカラー（青緑色）にする。

6



M（目黒）、W（西）、月桂樹の葉、中（中学校）、白鷺の羽を組み合わせた。

7



八中の白鷺と十一中の月桂樹を引用した。白鷺は飛躍、ペンは学問。左の月桂樹は、耐えることのない友情（葉と葉がくっついている）、右の月桂樹は、自立の様を表した（だんだんと葉と葉が離れていっていることから）。また、M（目黒）や、八と十一を英語にしたときのイニシャルであるEを忍ばせた。

8



八中の校歌・校章のモチーフである白鷺を対にし、両校が共に手を取り合う様子を表現した。2羽がそれぞれ羽を広げているようにも、1羽が大きく広げているようにも見るようにした。また、白鷺のクチバシが漢字の八、首が数字の11に見えるようにした。十一中の月桂樹の葉の線と曲線を取り入れた。

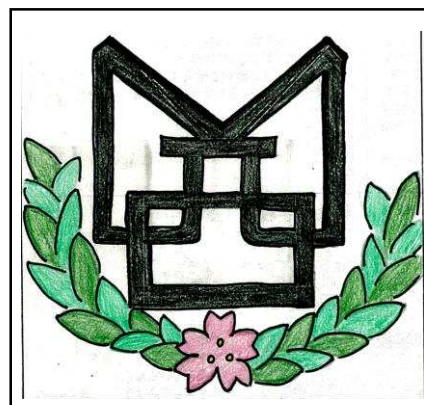
9



八中の鷺草と十一中の月桂樹を入れ、全体の形を円形にして、線対称なデザインにした。字体は隷書にしたが、西中の字の中に八と十一が隠れているため、少し太めに書いている。

また、月桂樹は下の方の葉をだんだん大きくし、（先輩が）後輩を支えて学校を創っていくという意味を込めた。

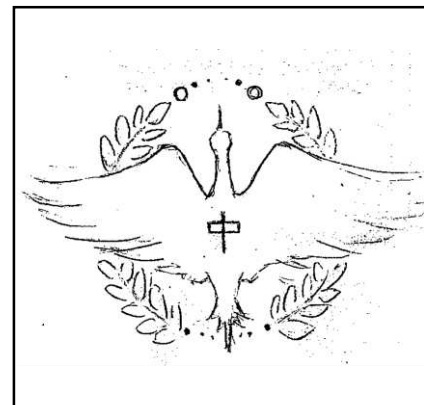
10



目黒西中の西と、目黒のMを組み合わせた形で、すぐに目黒西中だと分かるデザインにした。

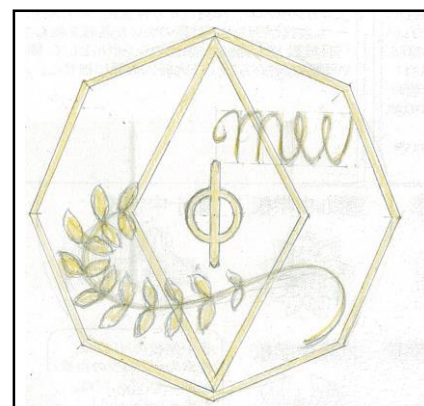
文字の下には、学校の目の前にある桜並木の桜と、十一中の月桂樹の葉を残し、自然豊かな学校を表現した。

11



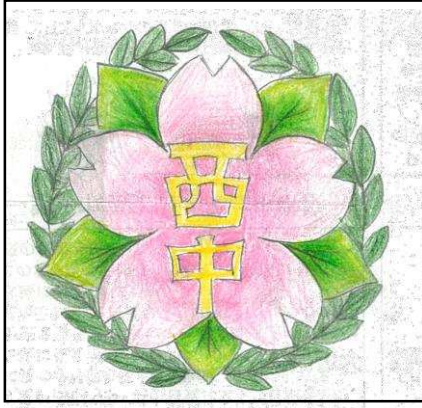
両校の校章デザインを組み合わせ、アンケート意見を参考に、丸みのある、白鷺、月桂樹を入れた。

12



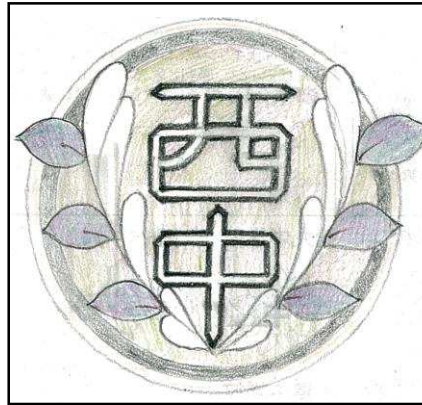
目黒西→MW (MeguroWest)。西という方角からコンパスをイメージし、十一中の月桂樹が西の方角を向くようにした。コンパスの中心を意味するとともに、中学校の中を入れた。八角形（オクタゴン）は、繁栄、幸運、幸福という意味がある。八からは未広がり、無限大のマークを連想でき、縁起が良い。

13



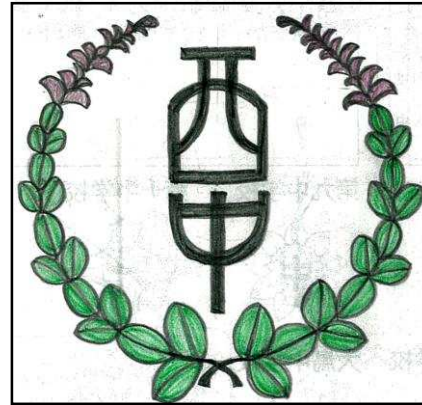
サクラには精神美という心の純粹さ、美しさを指した花言葉があることから、新校の生徒も心美しく優しい人になってほしいという意味を込めた。周りの月桂樹は優秀になるという意味を込めた。

14



十一中の月桂樹、八中の白鷺の羽を取り入れ、西中の文字を囲むようにした。

15



西中なので中央に大きく西中を入れた。目黒区の花のハギをデザインした。ハギは古い株から新しい芽を出すので、八中と十一中の伝統をもとに新しく輝かしい未来を築きあげてほしいとの願いを込めた。